

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 22年 1月 23日

【評価実施概要】

事業所番号	0170502413		
法人名	医療法人社団 弘恵会		
事業所名	グループホーム 生きがい		
所在地	札幌市白石区北郷2条1丁目3番20号 (電話)011-871-5005		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成22年1月21日	評価確定日	平成22年2月1日

【情報提供票より】(平成 22年 1月 6日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)15年 11月 26日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 12人、	非常勤 3人、 常勤換算 13.8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	4 階建ての	4 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費:22,000円 暖房費:10,000円(11~3月)
敷金	(有) 100,000円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	800 円	

(4) 利用者の概要(1月 21日現在)

利用者人数	18 名	男性	8 名	女性	10 名
要介護1	0 名	要介護2	7 名		
要介護3	7 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.5 歳	最低	74 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	整形外科内科沢口医院、 勤医協札幌歯科診療所
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム生きがいは4階建ての建物の最上階に位置しており、同じ建物の1~3階には同一法人経営の老人保健施設が併設されている。1フロアに2つのユニットがあり相互の行き来が自由な構造となっている。室内は明るく広々として設備も整っている。管理者は利用者の立場に立ったケアを心掛け、職員も穏やかで優しく、利用者はゆったりと毎日の生活を楽しんでいる。医師である法人の代表者が常時事業所を訪問し利用者の体調を確認してくれるなど医療支援体制が充実しており、利用者や家族の安心感に繋がっている。また、併設の老人保健施設でのボランティアによる催しを見学したり、施設のマイクロバスを借りての遠出など併設の機能を最大限に活かした支援が行われている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	プライバシーの確保の徹底のために、一覧表の面会簿を個人ごとに記名するカード式に改善している。職員の研修機会の増加や地域との協力の基に行う避難訓練については今年度も引き続き取り組んでいく。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については、全職員に評価表を配布して記入してもらい、管理者を中心に、計画作成担当者、ユニットリーダーがまとめ上げた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議には地域包括センターや住民代表、利用者代表などが参加し、活動報告を中心に意見交換が活発に行われている。家族の意見を参考に毎月の行事報告を郵送するなどの取り組みも実行されている。議事録も整備されている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	面会時や運営推進会議で家族の意見を聞き、対応できるものは即実行している。玄関横に意見箱を設置しており、重要事項説明書には外部の苦情受付機関を明示している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	町内会に入会しており、夏祭りなどの町内会行事に参加している。近隣との交流も盛んで小学校の運動会を見学させてもらっている。今年はインフルエンザ流行のため実現しなかったが、毎年小・中学校の「職場体験」に協力している。また、地域のボランティアが毎月訪問し民謡やお手玉などを披露してくれる。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念として「人格と意思を尊重します」「笑顔で明るく接します」ほか3項目に、地域密着を盛り込んだ「地域住民とのかかわりを大切に、行事などで交流を深めます」の1項目を合わせ、理念を作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は各ユニットの入口に掲示されている。職員は毎月の勉強会やカンファレンスでケアサービスの実践についての話し合いの中で理念を確認している。また、新人職員が入社した際は理念を印刷した用紙を渡し説明している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会しており、夏祭りなどの町内会行事に参加している。近隣との交流も盛んで小学校の運動会を見学させてもらっている。今年はインフルエンザ流行のため実現しなかったが、毎年小・中学校の「職場体験」に協力している。また、地域のボランティアが毎月訪問し民謡やお手玉などを披露してくれる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、全職員に評価表を配布して記入してもらい、管理者を中心に、計画作成担当者、ユニットリーダーでまとめ上げている。昨年の外部評価の「取り組みを期待したい項目」については、全てを改善することができなかつたので、今年度の課題として継続的に取り組むつもりである。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には地域包括センターや住民代表、利用者代表などが参加し、活動報告を中心に意見交換が活発に行われ、議事録も整備されているが、ホーム長の交代もあり、今年度は現在までに3回の開催にとどまっている。		今後は、議題の内容や会議の進め方などを更に工夫して、2ヶ月に1回の開催を期待したい。
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括センターが運営推進会議に参加するほか、ホーム長や計画作成担当者が区の管理者会議にて情報交換を行っている。また法人の担当者が市の担当者と直接情報交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等宛に、四季便りを3ヶ月に1回と行事予定を毎月郵送しているほか、金銭の報告も適切に行っている。また、必要時には電話で報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議で家族の意見を聞き、対応できるものは即実行している。玄関横に意見箱を設置しており、重要事項説明書には外部の苦情受付機関を明示している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	同法人間での職員の異動は1年間で1、2人程度は発生するが、定期的な人事異動はない。職員の離職を少なくするために、管理者が日常的に職員の相談に乗っている。新人職員が配属される際は見習い期間を長くするなど配慮をし、利用者のダメージを少なくする工夫をしている。過去にダメージが発生したケースはほとんどない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎月、ホーム内で勉強会を開催している。また、併設されている老人保健施設でも毎月研修会があり、希望者は参加できる。外部研修については、管理者と計画作成担当者が主に参加し、会議などで研修報告や情報の共有化を行っているが、一般職員の受講機会は少ない。</p>		<p>前年に引き続き、職員の研修機会を増加させることを期待したい。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同法人のグループホームとは忘年会や花見、健康診断などで交流する機会が多い。また、区の管理者会議には管理者と介護支援専門員が主に参加しているが、職員の同行の機会もある。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前に本人と家族等が見学に来て納得した上で入居している。本人が来られない場合は管理者等が本人を訪問し、馴染みの関係を築くようにしている。入居後は管理者や職員が頻りに声をかけ、利用者の希望は可能な限り受け入れるようにしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者一人ひとりの尊厳を尊重し、日常の対等な立場を心掛けている。職員は利用者からいたわりの言葉をかけてもらったり、鉢植えの花の球根を分けてもらうなど、教えられたり支えられる場面も多い。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>家族等からの情報を基に、ライフヒストリー表、フェイスシート、ケアチェック表からなる利用者のアセスメント表を早い段階で作成し、介護の中で得られた情報を蓄積し思いや意向を把握している。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>初期計画には家族、関係者から情報を収集し、家族、本人の希望を聞き取る中でアセスメント表を作成して、それらを基に計画作成者は管理者、職員と会議で意見を交換し介護計画を作成している。内容を家族に説明し同意を得ている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の見直しは、本人、家族の要望も聞きとり3ヶ月ごとに行っている。記録やケアチェック表を参考に会議で情報を交換し、内容の修正も加えて次の計画を作成し家族の理解を得ている。身体能力が著しく変わった時や介護度が変わった場合は新たに作り直している。</p>		
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>家族の受診同行が難しい時は事業所が通院の同行、送迎を行っている。個人の希望に沿って、時計店、本屋、商店、理容室に同行するなど柔軟に対応している。法人の併設施設でのボランティアによる催しを見学したり、施設のマイクロバスを借りての遠出など併設の機能を最大限に活かした支援が行われている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	脳神経外科、心臓内科、精神的なメンタルケアなどを受診する際に、家族が同行できない時は管理者、職員が同行し、主治医と連携しながら診療内容を家族と共有している。祝祭日を除き、月～金曜日は医師である法人の代表者が事業所を訪問し、利用者のその日の体調を確認している。希望すれば協力歯科医の往診も受けられる。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時に「重度化した場合の対応に関わる指針」を文書で説明しており、その中に看取りに関する事業所の方針を載せて同意を得ている。看取りについては家族の希望に沿っての話し合いを持っている。今後は、文章で取り交わすことも検討中である。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーに配慮した対応を心掛けている。前年の外部評価での取り組み事項であった一覧表の面会簿を個人ごとに記名するカード式に変更し、個人情報などの書類関係は事務所に保管し、職員が居間などで書類を記録する際も周囲に注意を払っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるが、利用者個人のペースを重視している。朝の体操、誕生会、コミュニケーションを図る音楽療法などは2ユニット合同で行い、ボランティアによる絵画教室、習字教室も希望で参加できるように、利用者に関心しながら対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は併設の老人保健施設の管理栄養士が作成し、月に2回は行事食を入れている。調理への参加は難しいが身体能力の状況を見て、下膳やテーブル拭きなどの片付けを職員と一緒にしている。食事中は利用者同士の会話があり、職員も食事を共にしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は月～金曜日の午後に行っているが、入浴がない日も希望があればシャワー浴を実施することもある。最低でも週2回は入れるようにして、病状的なことも勘案して長くても40分位までの範囲内で入浴を支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	タオルたたみや植木の世話などの役割を作り、職員は利用者の興味がありそうなことを引き出し、ピアノ、絵、習字などの趣味を活かしている。利用者は季節の外出行事や併設施設の催しを見学し、事業所内では将棋、花札、カラオケなどを楽しんでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏季には毎日のように事業所の周囲や中庭を散歩し、車椅子の方も外気浴を楽しんでいる。本を借りる、時計店で電池を取り換える、ドライブのついでにお菓子を買うなど、希望に沿ってできるだけ外出の機会を作っている。冬季には外気浴のほか、行事を入れて車で遠出もある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各ユニットの入口は開けているが、2ユニット共有の玄関は施錠している。玄関に鈴を付け出入りに注意しているが、共用空間が広く目が届かない所で危険な面もあり、現在は散歩中に開けておく程度で施錠していることが多い。		玄関の内側から開けるシステムは利用者に分かりにくい操作なので、精神的な面に配慮し、扉の工夫や安全面に注意して鍵を開けておく時間帯を長くできるよう検討されることを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>消防署指導の下で法人の併設施設と合同で避難訓練を実施している。利用者も参加し、初期消火、避難誘導、消火器の操作などを分かり易いように写真に残している。事業所では自衛消防訓練などで組織図を作り、職員は救急救命の指導を2年に1回は受けて災害に備えているが、夜間を想定した訓練は行われていない。</p>		<p>災害に備えて、近隣との協力体制を強化する方向で運営推進会議での話し合いを継続し、近隣の方も参加しての夜間を想定した避難訓練の実施に期待したい。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>個人記録に食事量、水分量を記録し把握している。併設老人保健施設の管理栄養士が1ヶ月の献立表を作り、さらに1週間ごとに成分表を載せた献立表を作り栄養バランスを確保している。</p>		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>2ユニット共有の広い玄関通路に観葉植物が並べられてあり、四季の行事など職員と作った合同作品が品良く飾ってある。各ユニットの共用空間には食堂、リビング、畳部屋と広くとってあり日当たりも良い。習字、塗り絵、絵など個人作品のほか、絵画が飾ってあり、落ち着きと同時に目を楽しませる環境づくりがなされている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室に趣味の物、テレビ、ベッド、タンス、イスなど馴染みの物が持ち込まれ、家族の写真、職員と一緒に作った作品や個人の作品が飾ってあり、その人らしい居室作りになっている。</p>		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。